

『バスケットで日本を元気に』の理念を実現するために

日本バスケットボール協会は、暴力暴言を始めとする、すべてのハラスメントのないバスケット界を目指し「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム ～暴力暴言根絶～」というメッセージを掲げています。

これは、インテグリティ委員会による提案であり、インテグリティとは「誠実さ」、「真摯さ」、「高潔さ」。バスケットボール界にはびこるハラスメントの問題をなくし、『バスケットで日本を元気に』の理念を実現するのが目的です。

スポーツ界ではここ数年不祥事、ハラスメント問題が次々と噴出しています。指導者の問題（体罰行為）、プレーヤーの問題（暴力行為や賭博行為）、組織や役員の問題（ガバナンス問題）と問題は多く、バスケットボール界でも2012年に部員に自殺者を出す桜宮高校バスケット部事件が起きています。また、これまで啓蒙活動が行われてきたにもかかわらず、全国大会の舞台でもコート上での暴言はしばしば確認できたのが現実です。

では、『暴力暴言根絶』のために、試合で具体的に何が行われるのか。レフェリー向けのガイドラインに『ゲーム中のコーチによるプレーヤーへの暴言、暴力的行為に対する対応方針』が付け加えられました。

コーチの暴力的行為および暴言といった振る舞いに対しては、「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」の観点からテクニカルファウルとなります。コーチのテクニカルファウルが2度になれば失格退場となります。このルールは以前から変更されたものではありませんが、『適用の徹底』が通達されました。

『テクニカルファウルの対象となる振る舞い』として挙げられている具体例を引用すると、

1. コーチのプレーヤーに対する暴言

(1) 人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉 最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様

(2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉 役立たず、下手くそ、アホ、バカ

(3) 身体的特徴をけなす言葉

〈具体例〉 チビ、デブ

(4) 恐怖感を与える言葉

〈具体例〉 殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

(1) 殴る・蹴るなどを連想させる行為

(2) プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為

(3) 「おい!」「こら!」と大声でプレーヤーを高圧的、威嚇的に指導する行為

(4) 継続的、かつ、度を越えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為

(5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

3. 第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

（1）不潔な服装、裸足やスリッパでの指導

実際の試合で勝敗に大きな影響を与えるテクニカルファウルのコールは、レフェリーにとっても大きなジャッジとなりますが、その基準があらためて明確にされたこととなります。

※試合中だけにかかわらず、普段の練習時から暴言・暴力の根絶を図っていきましょう。